

汽水域研究センター網走観測ステーション開設

北海道網走市周辺の汽水湖群観測の拠点とするために、網走市水産科学センター内に島根大学汽水域研究センター網走観測ステーションが開設されました。常駐のスタッフは置きませんが、観測時に汽水域研究センタースタッフ、協力研究員などが使用することができます。

網走市周辺には、サロマ湖、網走湖、能取湖、涛沸湖、藻琴湖など日本を代表する汽水湖群が分布しています。それらの汽水湖群は、比較的近接しているにも関わらずそれぞれ固有の環境特性を示しています。これらを一つのデータセットとして一般化することが可能であると考えています。また、近年、人為的改変によってさまざまな環境変化を経験しており、さまざまな環境問題が生じています。汽水域研究センターは、主に中海・宍道湖など島根・鳥取両県にまたがる汽水湖群を調査・研究していますが、網走市周辺の汽水湖群を同様な技術と手法を用い、リファレンスとして調査・研究することは意義深いと思われます。両地域の湖沼群を比較することによって、地域的な環境変化と汎地球的な環境変動を観測できることが期待されます。

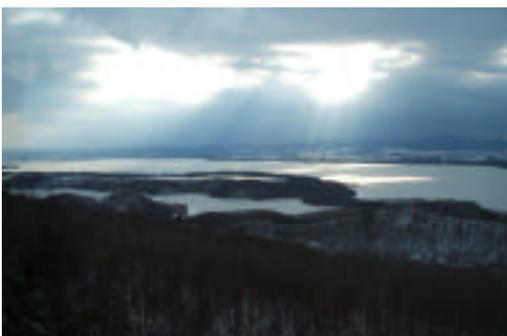
網走市水産科学センターは、能取湖の港の近くにある水産関連の研究拠点です。センター内には、展示室、共同実験室、宿泊施設などあります。このセンターでは、北海道立水産孵化場、東京農業大学、漁協などが集まってセミナーなども行っています。網走観測ステーションは、調査・研究・技術の交流の拠点として活用する予定です。とりわけ水産事業に関連した研究などが精力的に行われており、研究交流も積極的に進めていきたいと考えています。また、汽水湖観測のネットワーク体制構築のための拠点としても活用でき、松江—網走の汽水域観測ラインは、日本を縦断する観測網の脊椎と言える存在であると考えています。



網走観測ステーションの看板掛け
網走市水産港湾部・小坂部長と汽水域研究センター・瀬戸助教授



水産科学センター



冬の網走湖

関連する中期目標：

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

2 研究に関する目標

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

- ・調査・研究体制の国内外のネットワーク体制を構築する。
- ・調査・研究は基本的にプロジェクト研究を中心に進めることとする。